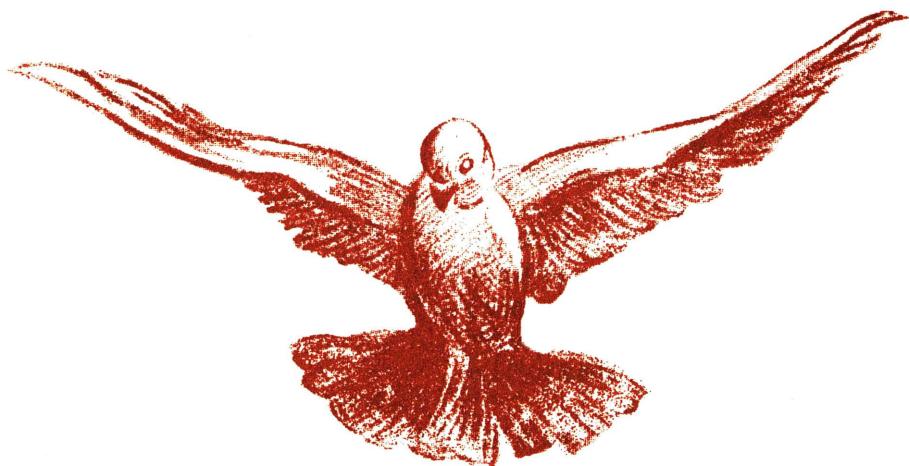


育教の兒幼

号二第 卷六十四第



會 協 圓 稚 幼 本 日

保育者の新しいノート(4)

S. K. 生

(1)

○或る児童研究者の調査の報告によると、この頃の子どもの遊びには驚かされる。時代を反映し、環境にならうといえばそれまでだが、その時代、環境を幼児の遊びから見せつけられて寒心に、今更たえないのである。やみやごつこ、おいはぎごつこ、それに、最近では、デモごつこもあるらしい。

○子ども、殊に幼児達は、格別深い興味をもつてしているのではなく、そのほんとうの意味なんか分つていないだろう。それだからといって、子どもの無邪氣さを笑つて見過せないのは勿論、それらの中に『悪の感じ』とでもいうものは、幼児たちの心に、決して持たせたくない快感(?)を経験させずにおかない。恐ろしいことである。

○そこで、そのとめかただが、そんな悪い遊びをするものではありません、など、うつかりいうと、その『悪の感じ』を刺戟して、却つて、悪の興味で、多分かくれてくれるようになるだろう。といって、無暗に彈壓してもそれで教育的指導が終つたものではない。

○或る先生に尋ねたら、それは、幼児の遊びが貧弱だからだ。いい遊び方を澤山教えることが必要だ。それで悪い遊びを追い拂うがいと教えて下さつた。尤もとは思うが、また、い遊びを教えることはいつでも必要で、わたくしたちも氣をつけているが、時代の強い反映、環境のはげしい影響にはなかなか追いつかない。困つて仕舞う。泣きたくなる。

○もう一人の先生に尋ねたら、それはねえ、

その遊びの中の興味を分析して、悪いところを捨て、いゝ方の興味をそのまま生かすのがよいと教えられた。むつかしいことだが、それが出来ればいゝと思って工夫してみた。やみやごつこをしているのを@ごつこに指導した。それで賣り買いの興味を充分満足された。おいはぎごつこを虎狩りに指導してみた。それで追かけや闘争の興味は満足された。虎になる子も、強いて面白がつていた。デモごつこも、その標語を變えて指導した。それで行進の興味は満足された。萬事この調子といふ譯でもないが、——子どものしていることにそんなに面くらわなくていいと思つた。

(2)

○世の中を考えると、憂慮と憤がいにたえぬことだらけ。つい、いろいろして、保育も神經質になり易い。子どもの世界まで、その心もちを持ち込んだりする。園長さんがいわれた。幼稚園の門をはいつたら、世の中も忘れなさい。折角きれいな世界へ、折角のどかな世界へ、よけいなものをもつてはいつていけない。お寺の門に、お酒氣を帶びて山門に入つてはならぬと書いてある。幼稚園にも興奮して入つて來てはならない。なんなら、入口で、手を洗い、うがいをして、世間とは別の、きつぱりした身にも心にも、きよめられてから入つて來なければならない。少くも幼児達のきれいな心が——どんな子にもあるきれいな心が、すなおに受けられるように。——そういわれた園長さんは、なるほど、園の外と内とでは全く別人のようだ。

第 六十四卷 第 二 次 幼児の教育

目次

やわらかい心	倉橋惣三	(2)
幼児皆保育のために	小川正通	(5)
個性保育	森田清	(10)
終戦後の幼児の特質	竹田俊雄	(14)
＝保育の實際＝		

幼稚園の新學期	及川ふみ	(17)
保育者として近頃おもうこと	増子とし	(19)
母と語る(2)	倉橋惣三	(21)
保育者の新しいノート(4)	S・K・生	

講座

個性の心理と指導(1)	牛島義友	(22)
-------------	------	------

附録

現代やわらかい(1)		(26)
------------	--	------

会から

や
わ
ら
か
い

心

倉 橋 惣 三

る。その目の色の、なんとあさやかにやわらかなことか、そ
の聲の音の、なんとさわやかにやわらかなことか。

春風に吹かれて、歩みの高きを恥じ、若草を踏んで、かゝ
との固きをおそれ、乳兒を抱いては、わが筋骨のぎごちなさ
を嘆き、幼兒と相對しては、わが心情のかたくなさを悲し
む。せめて、とたぐつを脱いで春園に入るおきてと、希くは
かたい心をほどいて幼兒に接する心がけとを忘れまじ。

前に、新年譜として、新しい心について考えた。その新しい心は、いき／＼してくること、さわやかなこと、あさやかなことを、必ずその特色とする。つかれてくる心、くもつている心、にぶい心の反対である。しかも、それらと並んで新しい心がもつ特色は必ず、やわらかいことである。

不斷の新しさと自然界に見たが、新しい自然界は常にやわらかい。新しい芽、新しい葉、新しい枝、それのみか、幹、根も、みな新らしい。その根を抱く春の土も、その葉を撫でる春の風も、新しさとやわらかさとのもちぬしである。いま待ちうける早春の野は、その新しさとやわらかさとに満ちている。春光新たにみなぎるところ、山もやわらかく、岩もやわらかく、天地あまねくやわらかさの世界となる。

子どもの心は、自然界の新しい如く新しく、自然界のやわらかな如くやわらかい。その膚のやわらかなと共に、その筋のやわらかなと共に、その骨のやわらかなと共に、その心は、或はそれ以上にやわらかい。ういく／＼といふ言葉は、古りない新しさの故のやわらかさを感じさせ、おさないと、いう言葉は、熱しないやわらかさの故の新しさを感じさせ

やわらかい心は、やわらかい膚の如く感じ易い。過敏の感傷に病んではならぬけれども、鈍感不感、革皮の如く貝殻の如きは、防衛のよろいの用はしても、一切を拒んで、享受共感のこまやかさを缺く。對立抵抗に導かれるとはあつても、相交り、相親しむの途にはならない。殊に、子どもの心の、すべて微妙な温かさや美しさや、貴いが常にかすかの中に漂う香りなどを到底感受し得ない。幼兒に接する資格がないといふよりも、幼兒の方のわびしさは大きからざるを得ないであろう。そのすぐなさは幼兒を失望させ、そのつれなさは、幼兒を悲しませずにさえおこまい。健全に育てられ

た小さい心は、強いて愛せられるよりも、小さい心を受けられることを求める。その最も眞實は、謂はゞ極めて謙虚なものである要求が充たされないのである。子どもにとつて、こんな不幸があらうか。それのみでない。受けられぬまゝに受けられないことが平氣になり、やがては、受けられることを求めなくなり、受けられる喜びを味わへないから、つゞには受けられることを好まなくなさえならんとも限らぬ。悲惨に過ぎることがあらうか。

やわらかい心は、まるやかにかど立たない。白眼人を射、冷語人を切るといつたことは全く別としても、ちらりと光る目、ふと尖がる言葉は、われ識らず相手のやわらかい心に對して思ひがけぬ銳さを感じさせずにはない。更にそれが、時には目にみえないとげともなり、時には、ちくりちくりと皮肉の炎傷ともなり、幼兒の心をいた／＼しく悩ますことも稀であるまじ。

やわらかさにのみ包まれては、強くならぬということもある。子どもの心も、もとより鍛えられる必要がある。しかし、名工は、たゞに鍛え、まるく鍛える。突かない、刺さない、傷け破らない。玉を鍛えるものは玉である。かどのなまらやかな玉である。幼兒の心は小さい玉である。その心を鍛えるのも玉でなければならない。せめて、小さい玉を傷けこぼち易い角石であつてはならない。たゞふんわりとのみ包もうとうのではない。強く推し、強く抑えることさえ

もある。しかし、そこにかくれた針の小さい刺もあつてはならない。玉と玉との觸れあいは、そのまろやかな面の、かどない、その意味で常にやわらかな觸れあいである。固く厳しいといつてはいけないが、いら／＼し易いわれ／＼の心が、如何に子どもの心を驚かすことが多いことであろう。いら／＼するとは、われともなく、小さく激してることである。激しきつた心には、それとしての張りもあるうし、熱もあるうし、相手の心を引き立てゝゆく力もあるう。新しさに伴うやわらかい心は、だれた心、なまぬるい心ではない。やわらかさといふ、どこまでも健康な眞實な心である。それに對して、いら／＼する心は、病的であり、眞實性のものでない心である。心のやわらかさをもつ眞の強さのない弱い心である。弱いが故に、小さきみな氣分に、小さく突いたり刺したり、相手の心をも、落ちつきのない弱い心にする。健康な眞實なやわらかさにある子どもの心にとつて、この位迷わくな、また有害なものはあるまじ。

やわらかな心は、こだわらない心である。流動自在、執着せず偏曲しない。頑固と偏屈の反対である。世に、こだわらないもの、幼兒の心の如きはない。過ぎたきのうちにとらわれることもなく、自ら自分に縛られるこどもない。その時的新しさに新しく、自分の生長の新しさに新しい。常に、今の自分に、いき／＼と生きていく。悲しければ泣く、しかし、いつまでもその悲しみに沈んではいない。腹がたてば怒る。し

かし、いつまでも、その怒に燃えたり、くすんだりしてはいけない。變轉常ならずといつてはいけない。變化に生き移動に生きるのはなく、いつも今に生きているだけのことである。それが、ゆく水は常にかくの如しこいわれた程の、動の哲理を含むものが、風竹林を吹いて後に影なしといふような枯淡な禪境に比せられるものか、素よりそんなむつかしいことではあるまいが、ゆうづう無げのゆう通性に、堅くるしい硬直と、きゆうくつな停滞を知らない自由な心ではある。この心の自由に、いつも晴れ／＼とした明朗性があり、あつさりしたたんぱく性がある。積つたごみで疊らされたり、粘りつくにかわでこちつたりしない。従つて、善忘といふ程の美德ではないとしても、濟んだことに、しつっこく、こびりついていない。叱つたことを忘れないのは、おとで、子もどは、さつき叱られたことも、すぐ忘れてくる。その時その時の争いも、どつからといふこともなく、さらりと忘れる。自らやみを知らないと共に、うらみといつたものをもちつけたりしない。むだな舊観念にからみつかることもなければ、餘計な先入見に支配されることもない。

心のやわらかさを妨げ、かたくするものにいろ／＼ある。理念、意地、こけん、皆それである。しかし、まさかに、こんな盾を立て、矛を執つて、幼い子に立ちむかうものはあるまい。幼児相手に、有意的につっぱつたり、わざとかど立て

たり、いちわるくこだわつたりすることは、めつたにある生い。だが、自ら心しなければならぬのは、忙しい心、疲れる心、老ゆる心である。忙しさに、もみくちやにされ、疲れに鍼だけにされ、老しに硬化され、われらも識らず、枯れ、しなび、頑固になる。子どものために思い、盡し、計ることは、良く、多く、正しく、一貫するとしても、子どもは、それを感謝するよりも、心の觸れあいの、いかにも、やわらかでないことに迷わずするであろう。心と心との接觸の快さはないが、しかたなく世話になり、しかたなく教育されていることもあるかも知れない。

かたくなになり勝ちな心を、常にやわらかに保つためには、どうしたらよからう。それは簡単にはいえぬ大きな修養である。しかし、われらには、世の人々が必ずしも恵まれていない事がある。それは、常にやわらかな幼児の心に常に觸れていくことである。このかたくなな心、幼児には隨分氣の毒のことも多からうが、こちらをやわらげられることの幸は無限といつていい。このかたい心が、とにかくも幼児と共に笑い、うたい、語り得るのは、幼児のやわらかい心にやわらげられるおかげといつていいかも知れない。この意味では、幼児保育者の心はやわらかさをもたなければならぬというよりも、幼児によつて常に心をやわらかにされていくのが、幼児保育者であるとそういう方がいいかも知れない。

幼兒皆保育のため

—主としてその制度について—

奈良女高師附屬幼稚園主事 小川正通

美しいもない、遊具もとものわらない保育施設においてある。

が、幼児達は愉快に楽しく思う存分、仲よく遊ぶようになつて來た。保育者も嬉しいという。

一、氣の毒な一部の幼兒は別として、すべて幼兒は温い家庭の懷において日々保育されているのであるが、こゝに幼兒皆保育とは、満四、五歳に達した國民學校就學前の幼兒は、家庭のみならず、保育施設においても、一人残らず保育を受けさせたいという趣意である。

充實に直ちに着手すべきである。

一體、幼稚園と託児所との二元化的現状は、その必要性が史的にはあつたのであるが、階級的、反民主的であることに異論はあるまい。前者は教育施設、後者は社會施設といふも、内容的には大差あるものでなくなつて來た。したがつて就學前二年の保育は、これを一元化し、將來、少くとも就學前一年の保育義務制を施行すべきことを目標にせられたい。文部省と厚生省とが、大乘的見地から協調することを切望する。そして全國民學校に、二年保育及び一年保育の幼稚園を附設せしめ、保育料を廢止することも、そのための一案ではあるまいか。新日本にふさわしい教育制度を樹立すべく、目下銃意審議中の「教育刷新委員會」においても、幼兒教育と保育施設の問題が殆ど論議されていないらしいが、はたしてそれでよいのであるうか。國民學校教育との聯繫において、また義務教育全般の問題としても、再考を煩らわしたもの的重要性が一層強調されて然るべきであろう。保育施設の普及、充實を強く要望する所以である。米國教育使節團の報告書中の幼兒教育に關する勧告に、一步を進めてその普及、いと思ふ。

二、戦災にあつた幼稚園や託児所の復舊にも力を注いでいたときたし。もともと保育施設は、都市に偏して設置されたのであるから、その罹災も甚大なことであろう。復舊といつても、必ずしも元の場所に、元の形であることを必要とせぬことはいうまでもないし、大規模の施設たることを要しない。むしろ保育施設は、小規模の家庭的な施設が多い設けられることこそ、望ましいのである。所謂簡易幼稚園設置の提案が、以前からなされていたことは人の知るとおりである。然しそのためには、勿論その最低設備準則の如きものを、研究、設定する必要があろう。

高等女学校にも、なるべく保育施設を附設せしむるがよいと思う。先に戦争中に、當局が附設することを勧奨したその保育所の行方如何。今もほそぼそと續けている所も廢止してしまつた所もあるらしいが、これに對して、當局は一體どう考えていいのであるか。

今度文部省は、市町村に「公民館」を設置し、その中に託児所の附設をも認めているようであるが、殊に農村においては、これをば保育のセンターとして、農繁期託児所との聯設についても充分考慮を拂うべきである。農繁期託児所の當設託児所への發展をば、かねて念願しつゝ、近時漸く盛んになりました農繁期託児所が、農村の労力復元と共に、再び衰える傾向にあるを見るることは甚だ残念であるからである。農村にも、農村の家庭教育の刷新・家庭生活の改善・農村文化の

向上、さらに農村の民主化のために、農村における託児所のものが意味は決して等閑に附されてはならぬと思う。

次に去る十月から施行された「生活保護法」においては、生活援護施設の一として、託児事業をも掲げている。おびただしい直接間接の戦争犠牲者の乳幼児を救濟、託児するため、その託児所の創設費も事務費も、共に國公費ですべて支辨することになつたようだが、その必要性に鑑み、早急に設置すべきであろう。要するに當面の問題としては、各種保育施設の普及・擴充こそ、望ましいのである。然し満四歳以上國民學校就學までの幼児を保育する施設は、これを教育施設たることに重點を置き、文部省所管とし、それ以下の乳幼児を保育する施設は、これを社會施設として、厚生省所管とし、運営することが理想である。なぜならばそれは、乳幼児の心身の發達の上からも、そのための施設整備の上からも、家庭及び社會の要求の上からも、妥當であると考えられるからである。

先の議會において、婦人代議士數名によつて、「乳幼児保育施設の整備擴充に關する建議案」（八月中旬提出）が提出されたようである。時宜にかなつた案として、賛意を表したのが、遺憾ながら未だその内容を知るを得ない。なお同じ議會での保育論議（腰原代議士質問）をどうしての當局の保育に對する消極性については、雑誌「保育」（第一卷第四號）の拙稿を參照されたい。

三、一體、保育施設と保育の内容及び方法とは、戦争中に

おいても、他の教育分野に比較すると、今日拂拭すべき戦時色の浸潤はあつたにしても、最も自由主義的、民主主義的であつたと一應いうことが出来よう。それは幼児の年齢、したがつてその心身の癡達の程度及び保育者が女性であること等に基づくのであるが、それだけまた戦争中は、放置されやゝもすれば不要視され、今日またあさまわしにされる虞れが極めて多いのである。したがつて保育の分野において從來の保育に對して、徹底的に反省、再検討を行い、保育の理念、内容、方法及び制度に亘る新保育の樹立に邁進しなければならない。而も新保育こそ、先來保育の本道なのである。保育項目の指導、模範及び保健の指導についても、自由主義的、個性主義的、文化主義的、人間主義的、民主主義的保育の立場から、殊に保育の實際に關して、至急解決を要すべき問題が山積しているのが現状である。新保育の構想については、雑誌「保育」(第一卷第一號より第三號)の拙稿「保育の新理想」に、一應明らかにして置いたので、こゝには省略することとした。保育者の間に、新保育への情熱が著しいことは認めるにやぶさかでないが、なた誰かが良きもの適切なものを、與えてくれるであろうと期待している傾向がなくもがなである。毎日幼児と生活を共にしている保育生活、その實際體験の中からのみ、中からこそ、眞實のものが生れて来るものであることを銘記されたい。幼児への愛と敬とは、自ら一切を解決するであろう。勿論それには、保育者相互の協力、共同研究を第一に必要とするのであるが、また幼児文化

の専門家や幼児學者の協力を仰がねばならぬ部面も、決して少くはないと思う。

さらに新保育は、科學的基礎付けがなければならぬのであるから、保育研究所といふか或は幼児文化研究所といふか、保育中心の有力な研究機關の設置の要を提案したい。

四、一般に我が國の幼児文化は、低調でないか。次代を双肩に擔うべき幼児の地位、さらにも文化立國の大理想に思いを致し、幼児文化の改善、刷新のためにも協力していただきたい。少くとももう少し幼児達のために、親切であつて欲しい。歌、童話、遊戯にしても、幼児に眞にふさわしい、新しい良いものは少いし、繪本、紙芝居、レコード、フィルム、玩具、遊具、クレオソフ等の手技材料にしても、粗悪にして且つ高價なものが横行しているのが現状であるまい。そのために家庭でも、保育施設でも困つてゐるのであるから賣られさえすれば、といふ舊思想を打破して、なんとか正しい方向に誘導しなければならない。保育者と幼児文化の専門家と幼児學者と業者との聯繫を密にして、よきものゝ製作、普及に協力すべきであろう。即ち前述の幼児文化研究所の必要な所以である。

また児童のための社會教育施設、例えば遊園地、動物園等も次第に復活、整備される氣運に向つてゐるが、それ等は児童にも充分利用され得るよう配慮していただきたい。要するに幼児の正しい發育のために、保育施設と相俟つて、幼児の廣義の環境が整備せられていなければならぬから

である。

五、家庭環境の良否は、幼児の生活に影響するところ最も大である。したがつて家庭教育の補充機關、場合によつては代行機關でもある保育施設は、從來も他の學校教育施設に比し、家庭との緊密な聯絡を圖ることに努力して來た。然し家庭殊に母親に保育施設の任務を充分認識してもらひ、保育施設と家庭との一層の協力によつて、幼児保育の實効を擧げねばならない。また兩者の聯絡施設としての「母の會」等を一層盛んにし、幼兒を媒介として、直接・間接に母親教育を行ひ、家庭教育の刷新、さらに家庭生活の改善、延いて家庭民主化の促進に寄與することも、保育施設に、したがつて保育者に負わされた重要な使命の一つである。

次に保育施設が、それを一般幼児にも開放、保育するが如き機會を作り、また一般幼児の保育相談にも參與、協力するが如き、さらに保育者が農繁期託児所へ或はそのための講習會へ奉仕を行う等の如き、保育施設の社會教育的機能の發揮にも力むべきではあるまいか。

六、私立教育施設の新日本教育建設における地位は、大であり、その任務は重い。當局も私立教育施設の振興をば、反覆強調している。先の議會においても、私學振興に關する決議案が萬場一致で可決された。蓋し私學においては、各施設をしてその教育の特色を自由に發揮せしむることが比較的に容易であり、而もそれは、教育の發展、教育の民主化のため必要なことであるからである。然るに今日その復興のため、

經營のため、殊に人件費のため苦境に陥つてゐる私學がおびただしいことは周知のとおりである。したがつて當局の私學振興は、これ等の經費の補助から、先ず着手すべきであるまい。私學を重視するといひ、またその特色を發揮せしむることを如何に獎勵しても、復興、經營不可能の状態に放置しては殆ど無意味に近いであろう。幼稚園や託児所や、また次項に述べる保育者養成機關については、私立の施設が官公立の施設に比して遙かに多いことを、こゝにあらためて指摘して置く。

七、保育の内容を充實せしむるためには、保育者養成機關を整備しなければならぬ。然るに從來のその施設は甚だ不備である。その多くは、高等女學校卒業、一年の修業年限を有するに過ぎぬし、經營上の必要に基づくものではあるが、私立高等女學校附設の形態をとり、而も大都市に偏在してゐる。新しい保育者養成施設としては、修業年限三年以上の専門學校程度のものが理想である。少くとも修業年限を一年とし、その内容を整備充實すべきであろう。幼児保育のためにも、勿論であるが、さらに母親教育について考えるときは現状のまゝに放置出来ない。したがつて保育者養成施設を有しない府縣においては、師範學校の女子部に、少くとも修業年限二年の保育科を設置せしむると共に、その保育科の教員養成のため、東京及び奈良の兩女高師の保育科をその本科にならぶものに昇格せしむることも一案ではあるまいか。幼稚園や託児所の普及及び内容の充實のためには、質的にも、量

的にも保育者の養成に力を入れることが肝要であるからである。また女性が乳幼児の保育について、教養並びに技術を有することは、假令保育者として、直接保育施設に勤務しなくとも、將來の母親として極めて望ましいと考えるものである。

戦争は保育者の質をも低下せしめた。したがつて新保育への發足に當つて、現保育者の再教育を組織的に行なうことが急務であろう。漸くそのための講習會、研究會等が、大都市においては自主的に開催せられるようになつて來たが、なお地方においては、忘れられてゐる傾向があるのではないか。

八、保育者の待遇の悪いこと、社會的地位の低いことは驚くばかりである。娘の片手間の仕事であるからと放置して顧みぬことは、言語道斷である。少くとも現状においては、幼兒保育が好きでなければ、その地位にとどまるることは不可能なのである。殊に私立の施設において、然りである。幸ひ保護者は、なにかと同情、心配していくてくれる。要するに國民學校の教員に準じて、早急に改善されるよう切望する。少くとも保育者が、健康で、愉快に、安心して、幼兒と共に生活出来るだけの保障を與えられたい。

また保育施設、特に幼稚園への必要物資の配給は、故意に忘れられるのが常である。なんとかせねばならぬ。保育者の社會的地位の向上、身分の保障、待遇の改善、福利増進、共同研究の促進、保育施設への物資配給の圓滑化

さらに新保育制度の確立のためには、各府縣の官、公、私立の幼稚園及び託児所の保育者が、一體となり、それを一括する組織を組め、さらにそれを全國的統一團體にまで結成することが、急務であると思う。

保育施設の重要性を、幼兒皆保育の必要性を、従つて保育者の重い任務を輿論にしよう。幼兒のために。新日本のために。世界のために。

(一九四六・二・一)

○東京都保育會の研究活動

(一) 合唱研究會 每月連續)

○時 二月十五日(土)午後一時

○會場 本郷第一幼稚園

○講師 弘田龍太郎先生

(1) 遊戲講習會(五回連續)

○時 二月十八日(火)午後一時半

○會場 小石川窪町女高師體育館

○講師 戸倉ハル先生

(三) 保育の民主化講習會(三回)

○會場 本郷第一幼稚園

○時並講演題

二月二十日(木) 保育再建の心構

二月二十一日(金) 民主化せる保育

二月二十二日(土) アメリカの幼稚園

(三日とも午後一時半開講)

倉橋 惣三先生
波多野 完治先生
功刀よし子先生

個

性

保

徳島師範附屬幼稚園主事 森 田 清

田

清

幼児期の意義、保育の目的及び方法、幼稚園の本質等の観點より個性教育に就て論じて見たいと思う。個性の完成とは、絶えざる追求を前提とする課題ではあるが、一應は職業個性の立場から、人格的機能と職業的機能との體制化である。換言すれば、職業機能構造に相即して人格機能構造が適性的に分化、健全することである。

扱て、幼児期に於ては個性的なものを發見し得ぬではないが、諸種の事情から其れを斷定する事は危険である。乃ち興味的傾向、或は能力的優劣は兩親の趣味、保姆の得手等による強制的、作爲的環境の結果であるか、又は心身機能の高さを示す發育的速度によるか、或は單に器用性によつてのみ表現されたものであるかも知れぬ。從來の心理學上の業績は興味の個性化、能力の個人差は十一、二歳頃、乃ち兒童後期に到つて眞實の姿をとることを示してゐる。

かく考へると、幼児期に於ける個性教育は如何なる形をとるべきであろうか。其れは將來への個性完成の素地的立場をとるべき考へるが、然し單なる兒童期への準備的立場でもなく、飽も幼児期迄の主體性を重んずべきである。乃ち、智

的には、あらゆるものに對する興味意欲を正確な感覺性を、性格的には純眞性を素直性を、身體的には成長と鍛練の爲の伸び／＼した身體を目標とすべきであり又此等が幼児期の眞實の姿でもあるのである。次に方法的に考察して見よう。

一、觀察即指導

親が子を教育する態度は「みつめる」ことである。其處には單に教え放しではなく、適性を發見する將來への職業指導的立場が含まれて居る。此れは親子の如き一對一の關係に於てなし得るのであるが、保育に於ても此の態度を必要とするわけである。此れは必ずしも個別指導を意味せず、「觀察即指導」によりて其の目的は達せられるのである。

では如何に「みつめる」か、私達は日常直觀的に眺める場合に於ても「ヨイ子」だとか「利口な子」又は「丈夫な子」等自然に智能的、性格的又は身體的の三方面より眺めていくことになる。矢張り此等の觀點より眺めることが必要である。

(1) 智能的觀察

幼兒の智能は遊戯及び手技等の技能的分化として主として

く過程を眺めるべきである。

現われる。談話や觀察に對しては外面向的、知覺的把握に止ま

り、其の内容に對する興味性、敏感性が個性的傾向を示す程度であらう。而して幼兒の精神構造から抽象的、思考的把握の不完全であることは明らかである。

技能的人格構造には機能性、構想性、感覺性の三要因が考えられるが、幼兒の遊戯及び手技に於ては其の發育程度より機能的要因が主として強調される。故に描畫の上手必ずしも藝術的素質を意味せず、唱歌の優秀必ずしも作曲家、器樂家の素質を物語つていらない。而して、其等の個人差は環境の偏頗性より來たる堪能の差異か、或は又、發音速度による機能的發達差に由來する場合が多いのである。

或は父親が買ひ與えた繪本迄も切抜きする我子を見て工作家の素質ありといい込んだとする。此れは甚だ危險な事で、繪本を見、又は讀む興味は兒童期に入つて最高潮に達するのであり、幼兒期は構成遊戯の最たる時期であることを考へねばならぬ。又此の子の家族はよく手技巧的玩具を買ひ與え、室内的遊びを獎勵したかも知れぬ。其の他身體的虛弱、屋外遊びの仲間に惡大將の存在、本人自身の内向的性格等の諸條件が前述の傾向を形成したのである。

何れにしても幼兒期に於ける技能の個性的、素質的斷定は早計である。其の觀察に當つては前述の諸條件を考慮し、環境的偏頗性を整理し、一種目的技術に捉らわれず、全體を見渡してゆがめられざる本來の技能的個性が自ら形成されて行

(2) 性格的觀察

(イ) 知性 幼兒生活は想像的、遊戯的生活であるが、此の期に於ける自己評價、業績評價を抜きにした興味追求の純真的態度は將來、現實的、客觀的認識の發達期に於て、其の生活態度、認識的性格決定の重要な條件となる。乃ち、希望的意欲と現實的評價との均衡度より空想的、理想的、現實的、否定的等の生活態度の型にわかれてくるわけである。

此の意味に於て、幼兒期生活の純真性を保護育成することが肝要である。此の純真性の破壊された子供の型には、利害關係とか成人の生活に敏感な早熟型と興味意欲の喪失、反社會的、非社會的傾向の濃厚な停滞型とを見出されるが、此等の指導の爲には、先ず、其の素地的背景をなす惡環境の觀察分析から始めねばならぬ。乃ち、成人的要求による強制、負擔過重等の幼兒の世界を無視した環境、經濟的、文化的施設、愛情等の貧困、其他不幸、放任等の餘りにも現實的な環境が其れである。

(ロ) 社會性 自主性とか協調性は公民生活上又は、職業的材能上の重要な條件であるが、かゝる社會性は個人が社會的環境構造を認識し、其の構造性より變える力に抵抗的に意識し、自覺し、自己を發見し、創造する所に陶冶されて来るものである。

幼兒の遊戯集團に於ては自他未分化、自己中心的精神構造よりして、社會成員としての自覺性が稀薄である。從つ

て、其の集團構造は保母中心が孤立的である。幼児にとつては環境の力は只影響として與えられ、其れにより機械的に反應し、生物的自己主張の姿をとるだけである。

従つて、幼児の社會性は本當の意味の社會性でなく、其の素地的のものであつて、獨立的性質とか順應的性質と言うことが出來よう。「三つの魂百迄も」の諺に従えば、性質の

個性的なるものの存在を肯定するわけであるが、此れは抽象的、素質的の意味に解ねばならぬ。例えれば、神經質の氣質は環境より自重的、謙遜的、周到的、入念的性質となり、一方には取越苦勞、干涉屋、恐怖症、輕率的となる。故に「可愛い子には旅をさせよ」の如く具體的性質は環境により決定されるわけである。

如何なる賢母でも社會的環境に即さねば我子の性格陶冶は不可能である。幼稚園が單なる家庭の補助的立場でなく、獨自の價値を見出す所以も此處に存する。

さて性質の觀察に於ては基準を素直性に置き、異常性を其の手懸りにすることが便利である。

此の異常性質の素地では自己主張の過度に抑制、干渉、欲求の制限、負擔過重、能力劣等、經濟的、文化的、愛情的貧困等である。

觀察に際しては一性質の現象的症状に捉らわれず、自己主

張を環境との力動關係を明らかにすべきである。過保護的環境と自己主張との關係には早熟的、放縱的、怠慢的、内向的等あり、抑壓的環境との關係には補償的、代償的、逃避的等がある。例えば「ウソ」つきの異常性質は放縱的關係からも又、逃避的關係からも生まれてくるのである。

(3) 身體的觀察

發育の過程にあるものであるから完成した姿に於て眺めることは出來ないが、健全性とか職業適性の上から云つても幼兒期に於ては伸び／＼した身體でなければならぬ。

觀察に於ては先ず體格を中心とし脊柱・胸廓等の形質的異常、運動感覺等の機能的異常、栄養、比胸圍、比體重等の發育的異常を發見することである。そして第一に、其れ等が體力乃至、疾病及疲労に對する抵抗力に如何に影響を與えていけるかを見るのであるが、其の爲には疾病及障礙の歴史的、系統的調査と、體力の科學的検査とを必要とする。第二には、以上の體格及體力的實態が身體的技術に對し如何なる關係を示してゐるかを究明する事である。

以上觀察方法に就ての説明は抽象的であつて、紙面の都合上具體的方法を明らかにし得ない事をお詫びする次第である。

二、人格尊重の教育

1) 自由主義

幼兒期の個性教育は個性完成への素地的立場であるとともに

に、幼児生活の主體性をも保持しなければならぬ事は既に述べたのであるが、其の爲には、ゆがめられざる本來の個性が自由に形成され得べき環境構成を必要とする。乃ち、興味が普遍的に堪能され得べき施設と指導力の充質である。家庭に於ては斯の如き施設と指導力の完備は望めない。

可愛いゝものしり

に わ も り

次には幼児の興味性、遊戯性を尊重する事で、成人社會の要求、保姆の趣味、特技、兒童期教育の模倣等の爲の形式的、強制的、偏頗的指導に墮してはならない。又此の方針に従い、保育の形態、方法、及び過程が計畫されねばならぬことは當然であつて、保育と國民學校教育との異なる所以も此處に發見されるわけである。

(2) 適性指導

適性指導とは職業的個性を目指しながら、各自の能力、性質に應じて指導し、其の指導、或は學習が即ち、其の子供の生活力の充實、向上であるべく努めることである。
かかる事のためには先ず、能力、性質等の個性の觀察、發見を保育の出發點、並びに基盤とせねばならぬ。

(昭和二一・一一・一三)

「先生きたないもの、もして何にするか僕知つているよ。灰をつくるんだね。」「そうよ。」「その灰は烟のこやしにするんだね。僕のお家でもお父様がそうするよ。」
この頃の幼兒たちは、今からこんなことをよく知つてゐる。このころ煙のじりをする様になつてやつとわかつた事を。

山の烟で出来たおいま、かぼちやは小さい人たちにどうそろしであるこんでもらつた。

小さい屑いもはそのまま捨てるのもおしいので、お天氣のよい時は、細く切つてお庭に撒げた。又小さい入たちが寄つてきても手傳つてくれる。

「これ乾燥いもにするのでせう。」「おうちでは乾燥いも勿櫻なのですぐ食べてしまふわ。」「そうこれ屑いもですからね。」といふわけをした。

終戦後の幼児の特質

愛育研究所員 竹田俊雄

終戦によるあらゆる變化と共に、日本の幼児はどう變つたか。我々が昭和二十一年五月、東京都内の公私の幼稚園、託児所、乳兒院、育兒院を對象として行つた「保育施設調査」

の一項目である「終戦後保育している兒童に見られる特質」について、各施設の保姆あるいは園長等が回答された結果をとりまとめてここに一資料として提示する。

この問題に對する回答は、開設中としての回答があつた七

四施設中、六二施設から得られたが、その中、九施設は幼兒に著しい變化が見られないし、他の五三施設からは一四一

第一表 變化の有無

回答 数	施設別						総回答 数
	幼稚園	幼稚園	公立	私立	託兒所	託兒所	
回答總數回	八	三	一	八	〇	一	一〇〇.〇%
白答數回	一	四	一	六	一	三	二六.二%
變化化 がいが ある	一〇	三	九	四	三	一九	二六.六%

件についての變化が報告されている。(第一表) 舉げられてゐる變化は種々雑多であるが、これは大別すれば次の六種類となる。

- 1 智能、興味、遊びに關するもの
- 2 性格に關するもの
- 3 健康に關するもの
- 4 食生活に關するもの
- 5 衣生活に關するもの
- 6 家庭に關するもの

そしてこれらの中、性格に關する變化を擧げてゐるもののが著しく多く、全件數の六一七を占めている。戰爭の終結という社會環境に於ける極めて大きい變化が、環境によつて形成される性格に影響することころ甚だなることはけだし當然の歸結であろう。

また第二表では括弧内に一施設當りの平均報告件數を掲げたが、これによれば幼稚園、託兒所の兩者とも公立より私立に多くの變化が認められてゐる。そして全體としては幼稚園と託兒所との間に殆ど差が見出されない。これらは兒童自體

第二表 變化の件數 (括弧内は施設當り)

種 目	施 設		別
	公 立	私 立	
智 能 興 味 遊 び	(0.30)	(0.28)	公 立
性 格	(0.27)	(0.24)	私 立
健 康	(0.19)	(0.17)	託 兒 所
食 生 活	(0.15)	(0.14)	育 兒 院
衣 生 活	(0.14)	(0.13)	計
家 庭	(0.13)	(0.12)	
計	(0.13)	(0.12)	

する
總件數に對
百分率

立託児所では問題とされていないが、公立の幼稚園でも、私立の幼稚園や、託児所でも第一に指摘されている。そしてこれらは行動ばかりでなく言葉の上の荒々しさをも含んでいる。

にもとづくものであろうか、觀察者によるものであろうか。さて幼兒の性格の面に於ける變化はいかなるものが着目されているか、回答者の用語は種々雑多であるが、これを要約すると第三表のようになる。

この表に見られる通り「従順」と「反抗的」「弱さ」と「たましさ」「明朗」と「元氣がない」などような相反する傾向も同時にかぞえられ、また「たくましさ」と「圖々しさ」と「現實的」というような、少しくいふれば、好ましくもなり、斥けなくてはならぬもなう特質もあるが、これを大觀すると「おちつきなく煩躁」という性格が最も著しく、性格上の變化の約半數(四六・〇%)を占めている。公

と逆の方向にある「よりどころがなく空虚が見られる」「不安」「恐怖心をもつ」「意志薄弱」というような消極的な性格も幾分目立つてゐる。また一般に「品性の低下」がいわれてゐるが、「盜み」や「よくぱり」「物的衝動的」「惡への芽生え」は報告の限りに於ては幸いにして少數である。

性格以外の問題は比較的少數であるが(第二表)、智能、興味、遊びについては「遊び」の貧困と「智能の低下」とが強調され、「英語」や「進駐軍への興味」が挙げられてゐる。

「進駐軍の眞似をする」という傾向も多い。

健康については「健康」「發育」「體質」「體力」の「低下」が唱えられ「衛生的に不潔」になり「かいせん等の皮膚

第三表 性格上の變化

(括弧内は施設當り)

特 質	施 設					
	幼稚園立	幼稚園立	私 立	公 立	私 立	別 別
品性の低下	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
従反	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
弱易	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
抗的	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
順	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
總	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
圖々しさ	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
現実	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
明瞭	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
元氣がない	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
益よみばり等	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
病	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
食生活の面では「食糧の不足」から「食物の話」が多く、 「空腹を訴え」たり、「食食をいそいだり」、「食食をもつて來なかつたり」、「辦當のために缺席する」ことがあり、 「辦當の盗まれる」事件も惹起する。「買喰い」が多くなつ	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
計	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
る百分率に對す	三・四%	六・九%	一・一%	五・七%	一・六%	三・四%
計	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
總百分率	三・四%	六・九%	一・一%	五・七%	一・六%	三・四%

たり、「おやつを目あての通園」が見られる反面、「偏食」はなくなつたようである。

衣生活は「服裝が整わず」「不潔」であり、「はだし」で通園するものもあるが、他方「履物」や「所持品」を大切にする傾向も見られる。

家庭は「勤労階級」や「新圓階級」の増加が報告されてゐるが、「戰災者」の多いところもある。そして家庭の態度として、社會的な事情の悪化から、一般的に子供を世話を餘裕が時間的にも心理的にも親になくなり、幼兒を「放任」し「躰け」がまつたく顧みられなくなつていると強く叫ばれている。

以上この調査の結果を要約して述べたが、この資料は「家庭に於ける躰け」の再建と「おちつきなく粗暴な性格」の矯正とが、終戰後に於ける日本の幼兒教育の重要な課題として強調されなければならないことを指示示してゐる。

幼稚園の新學期

及川ふみ

ながい冬ごもりもようやく終えて、草木の芽は、慎重に土を、もり／＼おし上げて来ました。赤い芽、青い芽、細い芽、太い芽、形や色はそれ／＼ことなつておりますが、いずれも春をまつて、もり上る旺盛な力にはかわりはありません。

春の幼稚園にも亦、この自然の盛り上る大きな力と同じ様に、幼稚園そのものにも、幼児たちが遊ぶ様子にもこの強い力が満ちております。

遊びなれた年長の幼児たちはうれしくも國民學校へ進んで、一つの淋しさを感じますが、又幼稚園には數多の小さい新入幼児を迎えるうれしい支度にとりかゝらなくてはなりません。

新學期の支度として、いろいろのことがありましようが先ず第一

組の編成について

幼児數の三四十人位の小人數の幼稚園では格別にこのこと

について何のわざらいもありませんが二組以上のところでは組の編成について考えなくてはなりません。

新らしく入園した幼児、年長組の在園者、男、女児の數、其他、年齢と幼児の數によつて組々の編成を考えましょ。一ヶ年保育、二ヶ年保育、三ヶ年保育など組の編成もは簡単に出来ません。同じ年齢の幼児、男女児の數が同じといふ事で一組の編成が出来、しかも一組の幼児數が三十人位という好条件に出来ればこれほど保育上ありがたい編成はないのであります。が、入園希望者の數によつてなか／＼こんな簡単にはまいりません。

幼稚園の経費

幼稚園の経費については、人件費、設備費、保育材料費、などと種々あります。こゝでは直接に保育に關係の深い保育材料費のみについて考えて見なしよ。この保育材料費は幼稚園の保育の内容を充實させる上に相當額のもの、ことに現在の物價高では尙更であります。が大體豫算をたてゝおかなくてはなりません。

一ヶ年高、一學期、一ヶ月高といふ様に大體のくぎりを立てゝ、保育の實際上按分を適當にいたしましょ。このことについては、入園退園の比較的動きの少い時期、或は出席率の高低などの事について細かい注意が必要であつて一ヶ年を通じての豫算をたてなくてはなりますまい。たとえば第一學期第二學期などは幼児の出席率のよい時であります。が、氣候の

寒い第三學期などは大體において出席率は低下するものであります。

保育室其他の諸室の内外の整備について

これは経費とも直接の關係のある事であります。保育室をはじめ、遊戯室、手洗場、靴置場所其他の諸室の破損修理などの設備の上にも、新らしい學期の始まる前に手入をして幼児たちを迎えるものであります。

砂場、運動機具（ブランコ、スベリ臺、ワクノボリの類）菜園、花壇などの手入、新しい計畫なども新學期のはじめの行事の一つであります。

以上形の上にあらわれてゐるものゝ大體の立案が出来上つたとして、次に

保育實際業

保育の實際案こそ幼稚園の骨子であつて、これには最大の努力をつくさんくてはなりません。けれども、ともすれば形の上にはつきりとあらわれないものだけに等閑といふまでもなくともおくれ勝ちになりはしないでしようか。

幼稚園は幼児と先生とがその中心存在であるといふ事は今更言葉を新たにするわけもありません。何の設備もない焼け土の原でも、幼稚園は先生を中心として集つてくる幼児た

ちではじめられるものであります。この建物の不自由な時代、諸設備の困難な時期に、その不足を補うためにも一段と周到な保育案を用意して始めなくてはなりません。この指針が健全に立案せられてこそ毎日の保育の實際もよどみなく進められる事であります。

保育案は、社會の年中行事、幼稚園の行事季節など保育案の骨子となる部分を基調として、これに年齢などをしんしゃくして、保育事項を選んで、一ヶ年間にこれを排列するのであります。さらに一學期、二學期、三學期という様に細かに出来るだけ詳細に保育細案をたてるであります。

幼稚園の設備、經營、保育案などと大小様々の用意のうちにやがて可愛らしい新入幼児を迎える入園式とまいりませう。

幼児の中に、今まで兄、姉たちが幼稚園に來ていた人たちは別として、新たに入園する幼児たちは、うれしい氣持の中にも、いくらかは見しらぬ先生、お友達の中にはじめて入る不安な心持もあるのは當然のことであります。これは幼児ばかりの氣持でなくして、保護者の方々にも多少、その感じはお持ちのことゝ思われます。

そこで幼稚園では、新入幼児に對してはことにこの點、先生の方の方で最も細かい心づかいをもつて、誠心誠意親切にこの人たちに接して、一日も早く幼児ならびに保護者の方々と親しみが出来る様になる事が新學期の一番大切なことであります。

しよう。幼児ならびに保護者の方々と親しみが出来てこそ、周到につくられた保育案の實際の活用が充分に出来るということになりましよう。

人なれの早い幼児は別として、今まで家庭内の人たちとの

み遊んでいて、あまり外の友達と遊ぶ機會の少かつた人たち

は一般になれにくいものであります。幼稚園の先生方は、幼

児と親しくなるためにいろいろの方法を考えられる事であ

ましようが、その幼児の名前を早く覚えるという事も一つの

方法であります。又幼児の家庭票などによつて先生が幼

児の家族の様子などを、略承知していく、兄弟の様子など話

し合うことなども幼児との親しみを早くすることあります

よう。

とにかく幼稚園は家庭の延長といふ事を、實際の氣持にも出して、幼児にも、保護者にも、幼稚園、先生といふものに安心してもらい、依頼してもらうといふ事がすべての保育の仕事が圓滑に進められる事であります。尙幼稚園と家庭の方々の親睦とをはかり、幼児を中心としての隔意なき保育の意見の交換なども、お互にその長短を補つたりのばしたりする事にもなるのであります。

新らしい入園幼児を迎え、又年長組に進んだ幼児の數多な春の幼稚園は希望に満ちて、自然の強い力と一緒に賑かに進みたいものであります。

保育者として近頃 おもうこと

東京都民生局保育班

増子ごし

保育と家庭

最近米國から來朝した舊知のある宣教師夫人に私は彼地の保育現状について尋ねたのですが、保育事業の上には戦時中にも、別段の變化が見られなかつたとの事でした。云々換えますと戦争の影響が彼地の幼児には見られなかつたのです。

多くの幼児は殆ど戦争を知らず戦争の國外に生活して來たのです。たゞ少し變つたところと云えば、幼児の母親が數人づつ毎日保姆の指導の下に保姆と一緒に我が兒たちの保育に専念してゐるのが以前には見受けなかつたところであるとの事です。

幼稚園や保育所が家庭の幼児教育の補助と考えられて來たりする事にもなるのであります。家庭と保育所が何れが主、何れが従と云うのではなく、協同の責任に於て幼児の保育に専念しているのです。家庭とか保護者會は、保育所に保育を委任するのではなく、常に協同の仕事として之を取り上げているわけです。云々換えれば何れも責任ある保育者としての立場に立つ事になるのです。彼地の事情が私共のそれに直ちに一致

するとは考えられませんが、「家庭、幼稚園」「保育、母親」と云うような概念をもう一度考へ直して今後の保育事業の推進上参考に致してよいこと、思ひます。

保育者の服装と言勧

保育者の容姿——清楚な結髪、清潔な指先、明るい色彩と模様の服装——之に對して灰色の色彩、不潔な服装、陰氣な顔——この中で美しい心情の幼兒は培われません。派手な服装をつくるというのではありません。園児に接する間だけでも、美しい模様、明るい暖かな色彩を持ち、軽快な動作に適する服装に着替えられたらいかゞなものでせう。

服装にもまして反省すべきはその言動です。胸にさゝるような甲高い制止の聲、射すくめるようなるどいみなざし、荒々しい所作——幼兒を窒息させて仕舞います。いつも笑みを湛えたまなざし、暖かい澄んだ聲、優しい動作——幼兒にとっては、天使のようにうつる事でしよう。心がけ一つで誰れでもが到達し得る所です。

室 内 の 環 境

保育室の天井、窓、壁、床、何れも保育者の服装と同じ效果を幼兒に與えるものです。室内的清掃、整頓、飾りつけ、幼兒の清潔を好む心、美を愛する心は、保育者の言葉を通じてではなく、その住む環境から得るものでしよう。

保育資材の貧困

幼兒が卑俗な歌を口の端にのせ、いかゞめし、あそびに熱中するのを、社會の罪と放任すべきでしょか、私達は私達の責任と感じないわけにまゝりません。

美しいメロディ、軽やかなテンポ、明るく楽しい平易な歌と、公正と社會性に富む身心を打ち込んで遊べる愉快な遊びは、私達以外には斷じて彼等に與え得ない事を自覺し、責任を感じべきです。

問題の所在

最後に問題は一つも、幼兒にではなく、母親にではなく、教師に在るのです。「問題の教師」——保育事業の成功と不成功的鍵は常に此處にあるようです。保育に携わる私達は絶えず自戒し精進に勉めましょう。

× × ×

母と語る(2)

三 惣 橋 倉

○わが子を丈夫にしたい。よい子にしたいとは、誰れも思うことである。こうも、あゝもと、それゞり希望があるとして、つまり自分の欲する理想に向つて、わが子を育てあげようとする。それが親の教育目的となり、親の熱心となる。それがはつきりとし、充分強くてこそその家庭教育である。どうにでもなるようにされといつた目あてのない仕事ではない。

○しかし、それは教育の目あてどおりで、着手ではない。ゆくては何をめざそうとも、出發は足もとからである。教育の着手は、子どもからである。教育の着手は、子どもからである。その正しい出發、正しい着手なしに正しい教育は出来ない。どう仕上げたいかは親の勝手としても(その勝手もなかへ思ふ通りに出来るものでないが)出發や着手は、親の勝手にならない。子どもはそれゞちがうからである。その子を育てるのである以上、その子がどんな子かをよく知らなくては、向うから見て、子どもを引くばつてゆくようなものである。それでは目あてはまづくらではないにしても、踏み出しまづくらである。

○子どもと一口にいふけれど、それゞの持ちまえがある。

同じわが子だからとて、兄と弟、姉と妹とは、體質も性質も同じではない。それを一つなみに考へて、正しい育て方が出来る筈はない。とんでもない間違いがそこから起る。わが子はこうありたい、こうである筈だときめてかゝる親に、この間違いが案外多い。

○子どもの研究とくことに二つの大きな方面がある。子どももといものゝ身心の発達の法則を研究することと、子どもの中のいろいろの相違を研究することである。普通にいう兒童研究は主として前の方々で、これが教育の方法を正しくするためにはどうまでもない。しかし、それだけでは足りない。そこで、個性の心理学とか、體質の生理學とかいうことが、盛に研究されるようになった。この知識をもとにしてこそ、眞に、わが子の教育が科学的に正しく行われる譯である。たゞこういう研究で、子どもの一人々々の相違を、すぐいに優劣の差と考えたりすることが普通であり、親心として一層そなり易いが、そんなに直ぐ心配したり喜んだりしないで、あるがまゝの事實として、先ず正確に知ることが大切である。よくなり悪くなるのは、あとの教育の結果である。その教育の前に、教育の正しい出發のために、先ず、わが子を知るのが研究である。遠慮なく申せば、今まで、親方にこの研究が足りなかつた。或は、『そういうことに少しも考慮しなかつたり、或は獨斷できめてかゝつたり、おそろしやおそろしや、あんなや／＼』である。(本誌先月號と本月號の講座は、この研究のためのものである。是非精讀されたい。)

個性の心理と指導 (二)

東京女子高等師範学校教授 牛島義友

二、氣質

性格や個性は生來の素質と後天的に形成されるものの兩方面から見なければならないことは前に述べたが、先ず生來的素質としての氣質の問題から考えてみよう。この氣質を考える時には何か身體的なものと結び付けて考える傾向が強い。

性質を獨目の遺傳單位と考えるよりも、この性質が何か身體的な徵候に結び付き、それに規定されていると考える。

即ち氣質論の中最も古いものはガレヌスの多血質、膽汁

質、憂鬱質（黒膽汁質）粘液質の四つの分け方であるが、こ

の考えはヒボクラテスの液體病理説を發展させたものである。ヒボクラテスは地水火風の四大原素に蒙つた四つの液體が身體の中に入り、この身體内をめぐる液體が不釣合になつた時、病氣になると考えた。ガレヌスは人によつてこの液體の割合が異り、血液の多い人を多血質、膽汁の多い人を膽汁

質などと言つた譯である。

この四つの分け方はその後多くの學者が繼承し、ヴァントは刺戟に對する反應の狀態という實驗心理學的考え方と結び付けて、刺戟に對する反應が速くて強いのが膽汁質、速いけれど弱いのは多血質等と述べている。

速 膽 汗 質
遲 憂 郁 質

強 血 液 質
弱 粘 液 質

粘液等は今日の醫學からはこつけいな考へのようであるが、今日は今日流にホルモンを持つて來て氣質を説く學者もある。古川氏の考へによると

O型 自動的、執著力強し、主我的理性的、注意集中的、

陽性、刺戟に動かされぬ方、精力的

A型 他動的、設我的、感情的、注意集中的陰性、刺戟に

動かされる

B型 自動的、執著力少し、稍主我的、注意分配的、陽性

特に著し、稍刺戟に動かされる方、精力的の方

A型 A型の性質を主調としB型の性質が混じたもの

この古川説はその後反対論が強く、氏の言う程血液型と氣質と關係はない」とされてゐる。この關係が無いとされるために實はこの説が一層流動してゐるようである。決定的な關係があるとすれば、好ましからぬ型に屬する人は深刻に悩む譯であるが、關係が大して無いと言われるので、安心してこの説をかりて、他人の性格判断などして楽しんでいるようである。一般に人の性質は複雑であつて、内氣な性質と快活な反面とが双方具つている人が多い。かかる人にお前はA型だから内氣だと言わると如何にも適中してゐるよう思うし、又B型だから外氣な性質だと言われても如何にもその通りだと思つてしまふものである。

多くの氣質論の中で一番信頼され、支持されているものはクレッチャーメルの學説である。彼は體型と性質の間に深い關係があると説いてゐる。彼は初めは精神病者の研究からこの説を立てた。即ち精神病は躁鬱症と乖離症（或は早發性痴呆症）に二大別されるが、躁鬱症患者には肥つた體の者が多

く、乖離症患者は瘦型の國土型の體格が多いことに氣付いた。この説は多くの學者が追研究をしてゐるが、ローデンが多くの研究者の結果をまとめてゐるが、それによると次の如くなつてゐる。

肥満型	瘠身型及 び鬱土型	成形異 型	其 他
（三二六三名）	（三二六三名）	（一九九一名）	（九九一九・九）
躁鬱症	躁鬱症	躁鬱症	躁鬱症
一一・八	六六・〇	一一・三	九・九

乖離症患者は我社會的自己閉鎖的性質であるが、躁鬱症は陽氣な患者で時に理由なく急に憂鬱状況が現れるものである。この患者と一般人との間に聯關係がある。精神病者と常人の間に變質者とか精神病的人格等と言われるものがあるが、之にも類乖離性氣質と類躁鬱性氣質に二分されるのが、同様に正常人もこの同じ性格方向で分けられる。正常人の場合の躁鬱性氣質とは

- 一 饒舌な陽氣者
- 二 物靜かな諸謹家
- 三 落付いた善良人
- 四 吞氣な喜樂者
- 五 精力ある實際家

四 乾びて感情鈍麻せる者
而してこの氣質を體型との間に矢張關係が在ると説くのである。

この説は大變興味あるものであるが、肥満型か瘠身型かの區別は成人の場合は容易であるが兒童期では困難である。子供の時にやせていたのが成人になると肥満する者も多い。故に幼兒教育に對してはこの説は直ぐ参考にすることは出来ない。

人の氣質を種々に分類することは興味があるが、常人と變質者と區別することも實際上必要なことである。この變質者は常人と質的に相違するというより、量的に程度の異なるものである。常人でも時に氣が狂わんばかりの状態になることがある、又變質者に見られる個々の精神徵候を常人の中に見出すことも多い。兩者は只程度の差と考えられないこともない程である。従つて變質者も普通の場合は常人と同じ行動をし、同じ考え方を持つている。只何か事があつた時、例えば非常な不幸や、困難な問題に遭遇した時、戰場に臨んだ時などに極端な恐怖や激しい情緒的反應をする。故に彼等を情緒安定度の少い人と言うことも出来る。従つてこの情緒の安定度を測る検査が色々と考案されている。我邦では岡部、淡路氏の情緒性検査が代表的なものであるが、この検査を私が簡略化して次の様な簡易検査に直してみた。

この検査は情緒不安定な徵候、神經質的徵候といわれるも

のが列舉してある。この一々の間に對し「はい」と答えた數を以て情緒安定度とはかるものである。尤も第十五問、第十八問だけは「いいえ」と答えた方が不安定徵候となる。「？」は數には入れないことになつてゐる。

この不安定な答の數が少なければよい譯であるが、それは次の表の段階點に基いて判断すればよい。マイナス²以下は不安定の者として注意を要する。尙これば國民學校上級生について定めた標準である。

段階點	不安定
+2	0—3
+1	4—7
0	8—12
-1	13—17
-2	18—22
-3	23以上

簡易情緒性検査

次に澤山の問題があります。自分の身に引當て正直に答えて下さい。

質問の通りであれば はい、反対であれば いゝえの下に線を引いて下さい。はい, いゝえのどちらとも決しかねる場合には?の下に線を引いて下さい。

1. 何かに追いかけられる夢を見ますか。 はい いゝえ ?
2. 何か買いたいと思うとたまらなくなりますか。 はい いゝえ ?
3. 人混に入るとおしつぶされはしないかと心配しますか。 はい いゝえ ?
4. あなたは後悔することが多いですか。 はい いゝえ ?
5. 人から世話をやかれるのがうるさくてたまりませんか。 はい いゝえ ?
6. あなたははずかしがりやで困りますか。 はい いゝえ ?
7. 時々さびしくてたまらないことがありますか。 はい いゝえ ?
8. 時々氣落がしますか。 はい いゝえ ?
9. 先生の間に進んで答えるのに氣おくれがしますか。 はい いゝえ ?
10. あなたは自分の外見が氣になつてなりませんか。 はい いゝえ ?
11. 自分のうわさをされることが非常に氣にかかりますか。 はい いゝえ ?
12. あなたにはいやなあだながつけられていますか。 はい いゝえ ?
13. あなたは異性に對してはずかしがりませんか。 はい いゝえ ?
14. 考え事のために眠れないことが多いですか。 はい いゝえ ?
15. 朝起きた時にはいつも十分休息したように感じますか。 はい いゝえ ?
16. あなたはせつかちで落付がありませんか。 はい いゝえ ?
17. 決心がつかないで時期を失してしまうことが多いですか。 はい いゝえ ?
18. 初めての場所へいつもたやすく行き着くことが出来ますか。 はい いゝえ ?
19. 何でもないと知つていながら物事が心配でならぬことがありますか。 はい いゝえ ?
20. しくじりもしないのによく仕事がうまくゆかなくなりますか。 はい いゝえ ?
21. 人の前で話すのが困難ですか。 はい いゝえ ?
22. 自分より偉い人の前では氣おくれがしますか。 はい いゝえ ?
23. あなたは人から面倒な相談をもちかけられるのはいやですか。 はい いゝえ ?
24. 気のすゝまぬ誘をうけた時ことわり切れないので困りますか。 はい いゝえ ?
25. 時のはずみで物事を言い切つて後で悔みますか。 はい いゝえ ?

附 錄

現代かなづかい

(二)

- 一、このかなづかいは、大體現代語音にとづいて、現代語をかなで書きあらわす場合の準則を示したものである。
- 一、このかなづかいは主として現代文のうち、口語體のものに適用する。
- 一、原文のかなづかいによる必要のあるもの、またはこれを變更しがたいものは除く。

第十五　トおよびドの長音はどう、どうと書く。

例

- 一、とうをとうと書くもの
とうげ(峠)たとうがみ(疊紙)
うとう(打たう)かとう(勝たう)たとう(立たう)
いとう(痛う)かとう(堅う)
さとう(砂糖)ねつとう(熱湯)おうとう(桃)
- 二、たぶをとうと書くもの
とうべん(答辨)とう(利)
- 三、だうをどうと書くもの
どうろ(道路)こうどう(講堂)かじどう(海棠)

第十六　ノの長音は、のうと書く。
ふどう(葡萄)

例

- 一、なうをのうと書くもの
しのう(死なう)あぶのう(あぶなう)
二、なふをのうと書くもの
あうにゆう(納入)
三、のふをのうと書くもの
きのう(昨日)

第十七　ホおよびボ、ボの長音は、ほう、ぼう、ほうと書く。

例

- 一、はうをぼうと書くもの
ほうりつ(法律)ほうし(法師)
三、ばうをぼうと書くもの
はつぼう(八方)

二、はふ(またはほふ)をぼうと書くもの

- ほうる(授る)
ほうりつ(法律)
ほうし(法師)
三、ばうをぼうと書くもの
はつぼう(八方)
四、ばよ(またはばふ)をぼうと書くもの
せつぼう(説法)

- 五、ばうをぼうと書くもの
あそぼう(遊ばう)とぼう(飛ばう)はこぼう(運ばう)

ほうどう (暴動) ぼうけん (冒險) ぼうす (坊主)

六、ばふ (またはほふ) をぼうと書くもの

びんぼう (貧乏)

第十八 ものの長音は、もうと書く。

例

まうをもう (書くもの)

もうける (儲ける) もうす (申す) やすもう (休まう)

たのもう (頗まう) あもう (甘う) せもう (狹う)

もうはつ (毛髪)

第十九 ミの長音はようと書く。

例

一、やうをようと書くもの

ようか (八日) はよう (早う) ようやく (漸く)

ようもう (羊毛) かいよう (海洋) たいよう (太陽)

二、えうをようと書くもの

にちよう (日曜) ようはい (遙拜)

ようきよく (詠曲) ようねん (幼年)

第三十 ロの長音は、ろうと書く。

例

一、らうをろうと書くもの

じのろう (祈らう) かえらう (歸らう)

くろう (暗う) からう (辛う) あらう (粗う)

ろうじん (老人) ろうどう (勞働) めいろう (明朗)

ろうか (廊下) たろう (太郎)

二、らふをらふと書くもの

ろうそく (蠟燭)

第二十一 キ (およびギ) の長音は、きゆう、ぎゆうと書く。

例

一、きうをきゆうと書くもの

おうきゆう (大きう)

二、きふをきゆうと書くもの

きゆうだい (及第) こきゆう (呼吸)

三、ぎうをぎゆうと書くもの

ぎゆうにゅう (牛乳)

第二十二 シニ およびジニの長音は、しゆう、じゆうと書く。

例

一、しうをしうと書くもの

しゆうと (男) しゆうとめ (姑)

二、あたらしゆう (新しう) すずしゆう (涼しう)

しゆうよう (修養) ゆうしゆう (優秀)

しゆうきゆう (就業) きゆうしゆう (九州)

しゆうい (周圍) こんしゆう (今週)

三、しうをしゆうと書くもの

しゆうちやく (執着) しゆうちゆう (集中)

れんしゅう (練習) へんしゅう (編輯)

三、 じゅうをじゅうと書くもの

じゅう (獸類)

四、 じぶをじぶと書くもの

じぶ (十) ぼくじぶ (墨汁)

五、 ちゅうをちゅうと書くもの

じゅうやく (重役) じゅうきよ (住居)

第二十三 チョの長音は、ちゅうと書く。

例

一、 ちうをちゅうと書くもの

はくちゅう (白晝) うちゅう (宇宙)

第二十四 ニュの長音は、にゅうと書く。

一、 にうをにゅうと書くもの

にゅうわ (柔和)

二、 にふをにゅうと書くもの

にゅうがく (入學)

第二十五 ヒニおよびビニの長音は、ひゅう、びゅうと書く。

例

一、 ひうをひゅうと書くもの

ひゅうが (日向)

二、 びうをびゅうと書くもの

ごびゅう (誤謬)

例

第二十六 リニの長音は、りゅうと書く。

一、 りうをりゅうと書くもの

りゅうこう (流行)

二、 りふをりゆうと書くもの

こんりゅう (建立) いちりゅう (一粒)

第二十七 キヨおよびギヨの長音は、きょう、ぎょうと書く。

例

一、 きやうをきようと書くもの

きょうだい (兄弟) きょうそう (競走)

二、 けうをきょうと書くもの

きょうよう (故鄉) きょうおう (經文)

三、 けふをきようと書くもの

きよういく (教育) てつきよう (鐵橋)

四、 きよう (今日) きようりよく (協力) きようき (狹氣)

五、 けうをぎょうと書くもの

しうぎよう (修行) にんぎよう (人形)

六、 げふをぎようと書くもの

ぎようむ (業務)

五、 こんぎよう (今曉)

六、 げふをぎようと書くもの

ぎようむ (業務)

第一十八 シヨおよびジヨの長音はしょう、じょうと書く。

例

一、 しやうをしょうと書くもの

しょうじき (正直) しょうぱい (商賈) ふしょう (負傷)
しのじょう (一生) しょうか (唱歌) しょうらい (將來)
ぶんじょう (文章)

二、せうをしようと書くもの

しょうせつ (小説) しょうねん (少年)
しょうしゅう (召集) しょうだい (招待)
びしょう (微笑) しょうしつ (焼失)

三、せふをしようと書くもの

こうしょう (交渉)

四、じやうをじようと書くもの

じようす (上手) かんじよう (感情) じようたい (狀態)
じようほ (謹步) じようじゆ (成就) じんじよう (懸常)

五、ちやうをじようと書くもの

じじよう (市場) れいじよう (令嬢) じようぶ (丈夫)

じよう (鏡)

六、せうをじようと書くもの
そうじよう (驅擾)

七、でうをじようと書くもの
さんじよう (三條)

八、でふをじようと書くもの
ろくじよう (六疊) いちじよう (一帖)

第二十九 チヨの長音は、ちようと書く。

例

一、ちやうをちようと書くもの

ちようか (町會) ちよう (腸) ちようちん (提燈)
じつちよう (一挺)

二、てうをちようと書くもの

ちようれい (鳥類) ちようしょく (朝食)
ちようし (調子) ちようこく (周刻)

三、せふをちようと書くもの
ちよう (蝶)

第三十 ミヨの長音はによると書く。

例

ねうをによると書くもの

によう (尿)

第三十一 ヒヨおよびビヨの長音はひよう、びようと書く。

一、ひやうをひようと書くもの

ひようばん (評判) たいひよう (大兵)

二、へうをひようと書くもの
にひよう (二猿) とうひよう (投票) ひよう (豹)

三、びやうをびようと書くもの
びようぶ (屏風) びようき (病氣) びよう (鋏)

四、べうをびようと書くもの
れいびよう (靈廟)

第三十二 ミヨの長音は、みようと書く。

一、みやうをみようと書くもの

ゑゐ	舊かなづかい
エイ	發
えい	音

新舊かなづかい對照表

一

- 注意
 一、りやうをりようと書くもの
 ゼンリよう(善良) リヨウ(ほう)(兩方)
 二、れうをりようと書くもの
 セイリよう(清涼) ブンリよう(分量)
 三、れふをりようと書くもの
 リよう(獵)

「ク・カ」「グ・ガ」および「チ・シ」「ヅ・ズ」
 をいい分けている地方に限り、これを書き分けてもさし
 つかえない。

- 第三十三 リョの長音は、りようと書く。
 例
 一、りやうをりようと書くもの
 二、めうをみようと書くもの
 みようじ(苗字)
 みようにも(明日) じゅみよう(壽命)

まばばはなだたささこがこかはあい うううううううううう	舊かなづかい
ばはたざさふふふ	發
ぱふ	音
モボボホノドトゾゴコオオウ	新かなづかい
オオオオオオオオオオ	
もぼぼほのどとぞそごうこう	
うううううううううう	

二

ほへふふひはづちぐくを わわ	舊かなづかい
オエオウイワズジガカオ	發
おえおういわすじがかお	音

○そえがき

やうふう、えう
らえふ

ヨオ
ロオ

よう
ろう

三

舊かなづかい

發

新かなづかい

きう、きふ
しう、しふ
じう、ぢやう
にふ

リビヒニチシシギキ
ユユユユユニユヌニ
ウウウウウウウウ

きゆう、きゆう
じゆう、じゆう
うううううううう

舊かなづかい

發

新かなづかい

きう、きふ
しう、しふ
じう、ぢやう
にふ

リミビヒニチジシギキ
ヨヨヨヨヨヨヨヨ
オオオオオオオオ

きう、きう
じう、じう
うううううううう

げんだいかなづかいは、つまり、くちでいうはつおんのま
まをもとにしたものです。むかしからつたわつているめんどう
なかなづかいを、おもいきり、かんたんにしたのです。ぶん
かはなかみがたいせつなのですから、それをあらわすぶちよ
うにぐらうするには、むだなことです。したがつて、ことば
も、できるだけはつおんとおりで、わかりやすいことばをつ
かいたいものです。むずかしいじゆくごは、きんもつです。
それとどうじに、かんじをへらすこともひつようです。かん
じをみなやめることも、どうかといふので、かんじせいけん
がきめられました。それは、ようちえんのことにはまだか
んけいないことですが、わたくしたちは、そのせいげんをま
るべきです。

かんじや、かなづかいの、むずかしいために、こどもはど
んなにむだなほねがあれるかしれません。また、ぶんかをひ
ろめるのに、どんなんにじやまかしません。それがやめられ
るのは、まことによろこばしいことです。なおついでに、か
きそえますが、これからはていてがくねんでも、かたかなでな
く、ひらがながおしえられます。ようちえんでも、かなをか
くときは、ひらがなにしましよう。

(へんしゅうしや)

會から

○まずおことわりをしなければならないことは、本誌の發行のおくが年を越してしまつた始末、相すまないよりも、お恥しくて仕方がない。まことにきまりのわるい限りである。申譯をいえば、理由のない譯でもなく、紙のきもんは兎も角として、電力きもんで印刷力の大減退は、大童の印刷部もどうにもようがない。その邊どうぞ御諒察を願うほかはないが、またしても季節はずれの内容になることは、編集者の顔づぶれはないとして、讀者の方々へまことに相すまない。

○内容といえど、前號から講座欄を設けて、誌友の御勉強の役に立てたいために、研究的な資料を、それ／＼の權威に執筆していくことにした。先ず牛島氏に、心理學の方から、子どもの個性を知る途を教えられるようお願ひして、みのある長いものを寄せていたゞいた。生方にお母さん方にも、是非精讀しておられることである。せめて、その月の内におもうが、だん／＼おくれて、新年號が年を越してしまつた始末、相すまないよりも、お恥しくて仕方がない。まことにきまりのわるい限りである。申譯をいえば、理由のない譯でもなく、紙のきもんは兎も角として、電力きもんで印刷力の大減退は、大童の印刷部もどうにもようがない。その邊どうぞ御諒察を願うほかはないが、またしても季節はずれの内容になることは、編集者の顔づぶれはないとして、讀者の方々へまことに相すまない。

○誌友諸君におことわり致さなければならぬ事は、本誌定價の値上げです。本誌が利得を頭においていないのは素より、フレーベル館の奉仕的刊行であることは、再刊の初めにも申上げた。しかし、それでも近頃の刊行費のかさむことは月をおうて止まるところを知らない。この際値上げの已むたきことは、賢察と御諒解を願う次第であります。

幼兒の教育

第四十六卷 第二號
定價 金三圓五拾錢也

昭和二十二年二月二十五日印刷納本
行
昭和二十二年二月二十八日發行

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
編集兼
發行者 倉 橋 牧 三

東京都千代田區神田神保町三ノ二九
印刷者 發 田 荣 藏

東京都文京區大塚町三十五
印刷所 明和印刷株式會社

東京都千代田區神田神保町三ノ二九
發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田區神田神保町三ノ二九
發賣所 株式会社 フレーベル館
電話九段三三一四〇・四三一・四三五
振替 東京 一九六四〇番

○本誌御購讀について注文申込その他は凡て發賣所フレーベル館宛に願います

及川ふみ先生畫

又リ工

B6 判全二册

卷一、年少用

卷二、年長用

定價各金七圓 送料各一圓二十錢

本帳は東京女子高等師範學校附属幼稚園の立案にて全國幼稚園、保育所に採用せられ頗る好評、表紙繊彩色頗る美麗、本文十六枚綴

じゆう画帳

A5 判全一冊

定價金三圓五十錢

郵船金一圓二十錢

出席力ード

十二枚一組
定價金拾圓

各幼稚園の爲に特製した二つ折の美しい四色刷のカード
一ヶ月一枚宛、十二枚一箇年分、裏面には幼稚園と家庭
との通信欄を設け

月謝袋

B7 判
五十枚一組

一組定價金廿五圓 送料一圓二十錢

出席簿

B5 判
五十枚一組

一組定價金五拾圓 送料一圓二十錢

巾六寸縫八寸五分にて兩面刷です一枚に園児四十名分を記入する事が出来ます

手技用折紙

全五色
赤・青・黄・綠・紫

定價五十枚一組金七圓 送料金一圓二十錢

立體的手技の初めで、児童自身工夫想像の餘地は少く、最初は全く模倣作業で稍困難ですが、慣れるにつれて喜んで之をいたします。可成正確に折らせる處に諸種の教育的價値があります。

顧問倉橋惣三先生

キンタフ・ア

定價一冊金拾圓 送料金五十錢

繪雑誌界の霸王

新しい保育用として全國の御家庭に
是非一冊を備へられんことを

各地代理店

發行所

株式會社

フレーベル館

東京都千代田區神田神保町三丁目廿九番地

振替口座東京一九六四〇番

北海道代理店 柏幼舍
北海道帶廣市東一條南九丁目一〇
高崎市田町三丁目十六番地

東北代理店 淺見商事
群馬縣伊勢崎市新町

東北代理店 金井榮一
東京都葛飾區金町

東部代理店 岡田商店
福井市佐久良仲町

北陸代理店 柴田喜一
東京都葛飾區金町

四國代理店 明生友社
松山市末廣町二丁目二十二番地

中國代理店 幼兒の友社
岡山市小橋町百七十番地

關西代理店 安田商店
岐阜市湊町十八番地

關東代理店 新友社
東京都杉並區西荻窪三ノ九五